



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」(通巻 277 号)

新島襄永眠 130 周年記念講演

「新島の悲願、新島の情熱」

学校法人同志社総長・理事長 八田英二氏



2020 年 1 月 23 日新島襄永眠 130 周年記念講演会及びコンサートが学校法人同志社の主催、同志社校友会神奈川県支部共催、大磯町後援で大磯町にある「聖ステパノ学園 海に見えるホール」で開催された。



第 1 部の講演会は八田英二学校法人同志社総長・理事長が演題「新島の悲願、新島の情熱」で約 30 分間話された。以下の内容は編者のメモを元にして、限られた時間と言うことで省かれたであろう情報を一部追加して書き上げたもの。文責は編者の多田直彦にある。

講演は、来場者への謝辞、第 18 代総長であることを話され本論に入られた。

◆同志社の三つの碑前祭

学校法人同志社が大切にし、毎年継続して開催している碑前祭は三つあります。

① . 「新島襄終焉之地」碑前祭

本日開催されたものです。

② . 「新島襄先生生誕之地」碑前祭

これは東京神田一ツ橋の角にある学士会の施設「学士会館」の外に建っている碑の前で開催されます。

実は学士会館には、もう二つ記念碑があります。正面玄関脇に「東京大学発祥の地」の石碑があります。また、野球のボールを握った手の記念碑があります。これは日本に初めて野球を伝えたと言われるホーレス・ウィルソン氏の野球殿堂入りを記念して、2003（平成 15）年に建立された「日本野球発祥の地」のモニュメントです。

③ . 「新島襄海外渡航乗船之处」碑前祭

これは函館市街より少し離れた人家や建物もないかつての外国人居留地の岸壁で、函館港に浮かぶ「緑の島」に架かる橋「新島橋」の脇にあります。そこで学校法人同志社主催、函館市後援で毎年、開催されています。

新島は、不思議なほど偶然で大きな出会いと協力者に恵まれます。ここ函館では福士卯之吉によって上海に行く船に潜り込む手配が整えられ、1864 年 7 月 18 日にベルリン号で上海に向かいます。船長のセイヴォリーは新島の脱国を幫助したことで会社から解雇されています。上海ではワイルド・ローヴァー号に乗り換えた。その船長はテイラー。その船主のハーディー氏は新島の養父母になり、アメリカでの生活を支え、三つの学校に入学することができた。アーモスト大学シーリー教授からは人格的、学問的な影響を受けています。このような人々が同志社設立につながっているのであります。

では、新島はどのような思いで日本を離れ、また帰国してきたのか、新島が詠んだ歌から見てみたいと思います。

新島が江戸から函館に船で行ったとき、その船の中で詠まれた歌があります。

「武士（もののふ）の思ひ竜田の山紅葉錦(にしき) 着ずしてなど帰るべき)」

竜田川という水面に紅葉が浮かんでいる。故郷に錦を飾るという大きな決意を秘めて江戸を離れ、まずは函館に向かいました。そのとき、新島は外国でいろいろな知識を吸収し、故郷の日本に錦を飾ろうと決心していたのです。

日本に帰って来たのは 1874 年 11 月です。その時に詠まれた歌があります。

「故郷（ふるさと）に飾る錦は匣（はこ）の中 身に纏（まと）ふべき時にあらねば」

日本を出る時は故郷に錦を飾るという決意で行きましたが、アメリカから帰ってきた時は、自分は大きな教育という事業を考えていました。今は故郷に錦を飾るということは封印しよう。これが、新島襄が 31 歳の時の歌であります。

46 歳の生涯を閉じる数週間前に詠んだ歌は

「石金（いしかね）に徹れかして一筋に射る矢にこむる大丈夫の意地」

石も鉄も貫くような強い意志の矢、自分の意志は石や鉄をも通るような強いものである、との意味です。

以上、三首の歌の中に新島の強い思いが込められています。21 歳、31 歳、46 歳の時の歌です。そこから生まれた同志社の卒業式は、数多く開催されてきましたが、その中でも記念すべき卒業式があります。それをご紹介します。

◆記念すべき三つの卒業式

その 1. 同志社英学校の第一回卒業式

それは、1879（明治 12）年 6 月 12 日午前 10 時から行われ、15 名に卒業証書が授与されました。卒業式は夕方 5 時までかかっています。それは、卒業生一人ひとりが 20 分間スピーチをしたからです。中には、英語でスピーチした学生もいました。

その後、新島は「隗より始めよ」の話をされ、最後に新島先生が饒(はなむけ)の言葉を送りました。

「Go,go,go,in Peace. Be strong. Mysterious Hand will guide you! 」

と力強く叫んで卒業生の前途を祝福したのです。

「行け、行け、心安らかに行け。力強く進みなさい。神様の不思議な御手が皆さんを導くであろう」

その 2. 同志社大学として最初の卒業式。

原田助同志社社長の時、明治 45（1912）年に同志社は専門学校令による大学がスタートしました。その第一回卒業式が大正 5（1916）年 7 月 5 日に挙行されました。卒業生は政治科 10 名、経済科 43 名、英文科 6 名、計 59 名で、徳富猪一郎が祝辞演説を行っています。

（参考）：「大学令」による同志社大学の開校は大正 9（1920）年であった。

その 3. 催行されなかった卒業式の挙行

2000 年 11 月、創立 125 周年記念行事としてホームカミングデーが初めて開催されました。その時、栄光館で記念すべき卒業式が行われたのです。それは学生運動のため執り行われなかった 1970 年、1972 年、1975 年の卒業式を行ったのです。対象者は約 8000 人おられましたが、参加希望者は予想を超えて約 1500 名。急遽、栄光館での式典は、その日に三回行うことになったのです。

当時の松山学長などもお招きし、かつての学生は卒業証書を持参し、角帽を被る者もいて、涙、涙の感激の卒業式になったのでありました。

このように多くの卒業生が同志社から巣立っていきましたが、新島襄の「悲願」は何だったのでしょうか。

◆新島襄の悲願

新島は、9 年にわたる米欧での勉学と体験から日本にリベラルアーツの大学を創ることが悲願でした。リベラルアーツの大学とは、技芸の知識に加え、社会的使命、人格形成をキリスト教精神でもって涵養する大学のことです。

新島襄は、大学には二つの大きな社会的使命があると言っています。一つは「専門知識を教えること」。もう一つは「人格形成を行なうこと」。なかでも重視しているのが人格形成です。専門知識は、人類の幸福のため、社会のため、自分の将来のために必要です。ただし学び得た知識を世に活かす時、品性が備わっていなければ意味がありません。

人間形成を行なうには、何らかの価値判断基準が必要です。そこで新島襄は、キリスト教主義の中で学生の人格形成を手助けしようと考えたのです。

新島は、そのような考えをアンドーヴァー神学校卒業後の 1874（明治 7）年 10 月、海外に宣教師を派遣する団体のアメリカン・ボード海外伝道部の年次大会がバーモンド州ラットランドのグレース教会で開催された時、「日本に近代市民を・・・＜一国の良心＞ともいふべき人物を養成するための大学を創りたい」と涙ながらに訴えたのです。

すると会場から次々と献金の声上がり最終的には 5,000 ドルの寄付の約束を得たので

す。その中には、帰りの汽車賃を差し出した農夫の 2 ドルも含まれていました。

「志」について

新島襄がグレース教会で参会者の皆さんから共感を得たのは、なぜでしょうか。新島は単に「夢」を語ったわけではありません。新島は「志」を述べたのです。

では、「夢」と「志」とはどう違うのでしょうか。「夢」は将来実現させたいと思っていること、願望や願いです。「志」は、社会をどのように変えたいのか、社会とどう関わっていくかが重要です。新島襄は「志」を通じて日本の社会を変えたい、と懸命に訴えたのです。

同志社は「夢」の向こうにある「志」を大切に、若者の「志」を大切にしていきます。

同志社は「志」が詰まった学校にしたいのです。

2025 年に同志社は創立 150 周年を迎えます。建学の精神は、私たち教職員の共通意識としてしっかりと根付いています。35 万人の卒業生と共にリベラルアーツ大学を目指したいのです。

大学を評価する基準は色々ありますが、私個人としては、卒業生がご自分のお子さんにも同志社を受験させたいと思ってもらえるような同志社にしてゆきたいと考えています。どうぞ、お子さんやお孫さんに同志社を勧めて下さい。

ご静聴ありがとうございました。

(感激で惜しみない拍手が続いた)